

# 2015 年度 センター試験 地学（新課程）（本試験） 分析

## 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：7 題	解答数：30 問
<p>総評</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必答問題が 5 題、選択問題が 1 題、計 6 題の構成であった。大問 1 題に 1 つの分野が対応していて全解答数も 30 であり昨年度地学 I と同様であった。</li> <li>2. 全 30 問中 14 問が移行措置旧課程地学 I と共通問題であった。</li> <li>3. 昨年度地学 I は、全ての大問が A・B に出題テーマ分けされていたが、今回の第 2 問と選択問題に関しては出題テーマ分けされなかった。</li> <li>4. 基本的事柄が理解されていれば正答できる標準的問題が主体であるが、第 4 問の A にあるように旧課程地学 I 以上に、用語の定義の厳密さ、図やグラフの読み取りの正確さが要求され、受験生には難しく感じられただろう。</li> </ol>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	地球の形とプレートテクトニクス A- 地球の形と重力 B- プレートテクトニクス	20 点	A. 地球の引力、重力、遠心力の関係と地球の形状に関する標準的問題とプレートの移動速度を問う標準的問題。 B. トランスフォーム断層とプレートに関する問題
第 2 問	地球の内部構造	10 点	地球を構成する物質、及び地殻や海洋プレートに関する知識を問う標準問題。
第 3 問	地質と地表の変化 A- 地質図 B- 大陸移動	20 点	A. 地層の走向・傾斜、地質構造、放射年代に関する標準問題。 B. 造山帯としてのヒマラヤ山脈、大陸移動説に関する標準問題。
第 4 問	大気と海洋 A- 低緯度の大气 B- 海洋表層の流れ	20 点	A. 対流圏における水蒸気と温度の分布、大気の大循環などに関する問題。問 1 は正確な知識を前提に図を判読するやや高度な問題。 B. 亜熱帯循環（環流）、地衡流に働く力に関する問題。
第 5 問	宇宙 A- 恒星 B- 銀河系	20 点	A. 恒星の諸量（年周視差、明るさ）、HR 図の読解、恒星の進化に関する問題。問 1 は計算が必要とされる問題であった。 B. 銀河系に関する標準的知識問題。
第 6 問 選択	火成活動と火成岩	10 点	偏光顕微鏡による鉱物の観察、マグマの諸性質に関する標準的知識問題だが、実際に顕微鏡で観察した経験がないと正答に至るのは難しいと思われる。
第 7 問 選択	地球の大気	10 点	ミランコビッチ周期、惑星大気の大気中の二酸化炭素、酸素、オゾンに関する基本的知識問題。